

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマープログラム／語学セミナー)

氏名	A さん		
所属	_____ 文 _____ 学部・大学院 _____ 文 _____ 学科・専攻		
留学先機関名	バンガー大学 (国名： ウェールズ)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☐ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	令和4年8月31日－ 令和4年9月21日	留学開始 時学年	3 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☐ JASSO 海外留学支援制度 ☐ 国際奨学事業 ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 ☐ その他 ()		



1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☐ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☐ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 (語)		
勉強方法	日頃自分が使っている英語教材の復習、動画サイトで英会話やリスニングのための動画を見る、洋楽を聴くなど		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用(おおよ その費用)	☐ プログラム費用 593,120 円 ☐ 宿泊費用(寮／ホームステイ等) 円 ☐ ビザ申請 円 ☐ 渡航費(☐ 片道 ☐ 往復) 円 ☐ 海外旅行保険料 7,530 円 ☐ 食費 35,000 円 ☐ その他(交通費や生活費、お土産代など) 60,000 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	JAL	手配	※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	熊本→羽田空港→ヒースロー空港→マンチェスター空港→バンガー	到着時刻	現地の 24 : 00 頃 【※移動時間(約 20 時間)】
大学(寮)への 移動手段	☐ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☐ 公共交通機関(☐ バス ☐ 電車) ☐ その他()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	基本的に乗り換えの仕方などは事前の資料に書いてあるので資料に沿って行動すれば大丈夫です。分からなくても緊急連絡先があるはずなのでそこに相談すれば大丈夫だと思います。		
宿泊先	☐ 寮 ☐ ホームステイ その他()	宿泊 手配	☐ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他()
部屋の種類	☐ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他()	ルーム メイト	☐ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他()
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	現金だけでも生活できないことはないですが、キャッシュレス化がかなり進んでいるので、クレジットカードは持っていくべきです。クレジットカードは VISA か mastercard であればほぼ使えます。JCB はあまり使える場所がありません。また、コインの種類や貨幣の単位(1 ポンド=100 ペンス)を事前に覚えておけば現金で払う時に混乱せずに済みます。		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	受ける授業は大体決められていますが、数回自分の選択したいコースを選んで好きな授業を受ける機会がありました。授業の内容は、文学作品の読解や新聞の分析、ウェールズやイギリス全体の歴史、ウェールズ語などで幅広く学習できました。フィールドワークの前にはフィールドワーク先の歴史や重要なポイントを事前に授業で理解してから行くので、ただその場所に行くだけでなく深く学びながら充実したフィールドワークの時間を過ごすことができます。また、フィールドワーク先ではお土産屋観光の時間も十分にるので、楽しみながら学べます。大体朝の授業は 9 時から開始され、17 時ごろに授業が終わることが多かったです。ただ、ホームステイ先と大学の距離がみんなバラバラなので 1 日全体のスケジュールはホームステイ先によるかと思います。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	基本的に授業時間は現地スタッフの方が常時ついてくださるので、何か困ったとしてもすぐに相談すれば大丈夫です。ホストファミリーの方々も私たちのことを気遣ってくださっていたので、通学のバスや家の周辺での過ごし方など親切に教えてくださいました。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	特にはありません。
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	休日はホストファミリーが有名な観光地（お城やマーケット）までドライブに連れて行ってくださったり、自分たちで小旅行を計画して週末の 2 日間ロンドンに滞在したりしました。ドライブはホストファミリーのおすすめの場所に連れて行ってもらうような形でした。ロンドンには熊本大学のみんなで行きたいと話していたので、ホストファミリーにホテルの予約などを手伝ってもらいつつ、自分たちで計画して旅行に行きました。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

現地の方々はとても親切で気さくに喋ってくださる方が多く、初対面の方とも英語を話すことに過度に緊張せずに話せるようになりました。すぐに流暢に話せるようになるわけではないのですが、英語圏での日常生活を過ごすことで、留学に行く前よりも英会話の能力は上がったのではないかと思います。また、実際に現地の日常生活を体験することで、家庭での生活や娯楽、言語の多様性など様々な場面で日本とは違う文化に触れるので、異文化理解の深化にもつながったと思います。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関することなど自由に記載してください）

海外では言語が通じないことがあるため不安がある人もいると思いますが、プログラム中は、授業時間中はバンガー大学のスタッフの方々がいっしょにいてくださり、ホームステイ先でもホストファミリーが生活をサポートしてくださるので、何か困ったことがあればスタッフの方やホストファミリーに尋ねれば解決できます。現地の方々は優しくて気さくな方が多いので、あまり不安や心配を抱えすぎず交流を積極的に楽しんでみてください！

プログラム中はメールのやり取りやプレゼンの準備などをすることもあるので、PC を持っていくことをお勧めします。スマートフォンは現地で SIM カードを買うか、日本で事前に WiFi を借りておくなどの対応をしていくと良いと思います。

留学を通しての感想

私にとって今回が初めての海外だったので、期待と不安や心配を抱えながらの参加になったのですが、スタッフやホストファミリーが温かく迎え入れてくださったので心配や不安がすぐなくなり、現地での生活は日本と全く違った様子で毎日がとても新鮮で楽しかったです。平日は授業やフィールドワークを通してウェールズの社会や歴史、文化を学んだり、週末はホストファミリーとドライブをしたりロンドンへの小旅行で観光地を巡ったりと 3 週間という短い時間の中で充実した経験を積めたと思います。留学で得た経験をこれからの勉強や就職活動など様々な場面で活かしていきたいです。

氏名	B さん		
所属	理 学部・大学院 3 学科・専攻		
留学先機関名	国際連合 (国名： イギリス)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☐ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	2022 年 8 月 31 日－ 9 月 21 日	2022 年	留 学 開 始 時 学 年 <u>3</u> 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☐ JASSO 海外留学支援制度 ☐ 国際奨学事業 ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 ☐ その他 ()		

熊本大学海外派遣留学生 報告書
(協定校サマープログラム／語学セミナー)







1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☐ 無 種類 ()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所 ()
留学に向けて 取り組んだ語学	☐ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 (語)		
勉強方法	事前にもらっていた課題の中で意味がわからないものを調べておいた。専門科目との両立が難しく、あまり英語にかけられる時間がなかった。		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用 (おおよそ その費用)	☐ プログラム費用 円 ☐ 宿泊費用 (寮／ホームステイ等) 円 ☐ ビザ申請 円 ☐ 渡航費 (☐ 片道 ☐ 往復) 円 ☐ 海外旅行保険料 円 ☐ 食費 円 ☐ その他 () 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	JAL、BA	手配	※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ		到着時刻	【※移動時間（約 時間）】
大学（寮）への 移動手段	☐ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☐ 公共交通機関（ ☐ バス ☐ 電車） ☐ その他（ ）		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	貸切バスだったため、特になし。		
宿泊先	☐ 寮 ☐ ホームステイ その他（ ）	宿泊手配	☐ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他（ ）
部屋の種類	☐ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他（ ）	ルームメイト	☐ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他（ ）
その他生活に必要な 手続き、アドバイス （口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など）	口座開設は期間が短いため、必要ない。 保険は、必ず入っておく必要がある。私自身、スーツケースが破損してしまい、修理に出さなければならない状況だった（4つの車輪のうち1つの車輪がとれた）。スーツケースが届かないこともある。スーツケースが破損したことや届かなかった時は、スマートフォンを使って登録することが一番いいと思う。私は、マンチェスター空港のタッチパネルで情報を入力した時に、メールアドレスを大文字で書いてしまったことにより（小文字の選択方法がわからなかった）破損証明書が届かず、保険が本当に降りるかが心配だった。破損の場合、破損した日から7日間しかもう一度証明書を請求することができないらしく、私が気づいた時には遅かった。国際連合の方が動いてくれるが、基本時には自分が行動を英語を話さなければならない状況で助けてもらうことをお勧めする。破損した時は、すぐに保険会社に連絡すると良い。これから必要となる書類などを教えてもらえる。24時間保険の対応を行ってくれる電話番号があるため、そこに連絡すると良い。最悪、証明書がなくても証人がいれば請求をできるらしいが、私もまだ請求していないため、どのような結果になるかはわからない。特に、ヒースロー空港からの移動の際に、スーツケース破損などがよく起きると、スーツケース会社に言われた。日本よりもスーツケースの扱いが危ないため、気をつけるべきである。自分には必要ないだろうと思い、保険の内容を確認しないや、実際に起こった時にどのような行動を取ることが必要になるのかを確認することは重量であったと感じた。 携帯電話は、私は使用している携帯電話がSIMフリーだったことと、経験と思いイギリスの空港でSIMカードを購入した。設定に結構時間（何も調べていなかった私自身1時間はかかった）がかかる。また、本当に設定できているのか、追加コースに加入するように促すメールが来るのが少し怖いと感じた。だが、一番コスト		

	を抑えられる方法である。安全性を考え、時間を無駄にしたくないのであればSIMカードはお勧めしない。 荷物は、思っている以上に重いと思ってい。私は、行きは23キロギリギリであった。帰りは、ボストンバックを持って行き、それに荷物をわけていれることをお勧めする。小さすぎると嫌がられる可能性があるため、大きさがあり口がちゃんと閉まるものが良い。レインコートは必ず必要である。研修中は大雨が降ることがなかったため、傘ではなくレインコートで過ごした。服装は、圧縮袋に入れるのが良いと思う。 支払いは、ほとんど全てクレジットカードでできる。バスも自動販売機もお金を引き出すのもできる。
--	---

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	ウェールズの歴史、バンガーの歴史を学ぶ。学んだ後は実際に訪れることができるため、フィールドワークを楽しむことができる。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	PONTIO と呼ばれる地域の人と共同に利用できる施設を利用することができた。また、図書館も利用できる。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学IDの設定等）	特になし。

休日や余暇の過ごし方 (観光、現地学生との交流等) ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	ホストファミリーと一緒に過ごす休日は、ホストファミリーによって大きく変わると感じた。ホストファミリーが最初の休日に予定があるため、他のホストファミリーの家に休日だけ過ごしに行った。その休日は、ウェールズの有名か観光地に連れてってもらった。日本にはない景色を多く見ることができ、現地の人と話せる時間はとても有意義な時間であったと感じている。2回目に休日は、同じ大学の人たちとロンドンを観光する計画を立てた。ホストファミリーに予約を手伝ってもらった。大人数での旅行は難しかったが、イギリスでしか出来ないこと、見る事ができないものを優先していくことがおすすめである。テレビやインターネットで見ていたものを実際に見ることができたのは、嬉しかった。最後の休日は、山に登った。ホストファミリーは、どこに行きたいと言う方が休日の計画を立てやすいと思ったエリザベス女王が亡くなったことにより、学校のスケジュールも代わり、休日が1日減ったため、行きたかった所にいくことができなくて残念だった。イギリスは、日本よりも閉店時間が早いため、学校終わりにお店に寄って帰ることが難しかったため、休日にいろいろな場所に行きたかったと感じている。
---	--

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

この研修に参加することで、自分が勉強している英語について知れたと思う。勉強として英語をまなばず、常に英語を使い過ごすことは私には、合っていると感じた。私が研修中で一番好きな時間は、現地の人同士での会話を聞いてどのような会話をしているのかを考える時間である。実際に、現地の人やホストファミリーと話すときは、私が理解しやすいように簡単な英語を使って会話をしてくれるので、実際に現地の人同士が話す会話は、早くて聞いたことのない単語がたくさん出てくるため、会話の内容を理解することはできないが、その時間を毎日持つことで、だんだん理解できているような気がした。

自分の考えを言葉にしなければ伝わらないのは、理解していることだが、英語で表現する力が自分にはないことがとても悔しかった。また、私と会話している時に、私に内容が伝わらなかった時に、伝えることを諦められる場面があった。自分の英語力のなさに申し訳なくなった。今、自分がこの内容を理解できたら、もっと会話を弾ませることができたのではないかと考えると、ほんとに惜しいことをしたと感じた。大学生になって、英語は自分で勉強する以外習得方法がないことが、自分のやる気を問われていると思っている。私は、英語を習得したいと今回の研修を通して感じた。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関する
こと、生活全般に関する事など自由に記載してください）

たった3週間で自分かどのようになりたいかは、明確にしておき、その目標達成のために全力で行動してほしいと思う。終わってしまうと、3週間を早く感じる。一日目からどんどん会話をしていこうという気持ちを持つだけでなく、行動することが重要である。考える必要はあまりなく、行動が一番である。時間が限られている中で、自分がその時間をどのように使うかを問われると思う。かといって、単語だけを言う英語はよくないと思った。初日はそれでもいいかもしれないが、文法も少しずつ意識していくことが重要であると思った。また、一緒にホームステイ先の学生の英語に対する気持ちも自分に影響を与える。その子が一生懸命にホストファミリーと会話するのを見て、いい意味で刺激をもらい、自分も会話しようと言う気持ちがうまれる。私が実際に一緒になった子は、家の中で、自分達も英語を話そうと言ってくれた。私自身は、その考えはなかったが、その行動をすることで、もっと英語に触れることができると思ったので、やってみようと思った。やってみようという気持ちを持つことも、大事だと感じた。

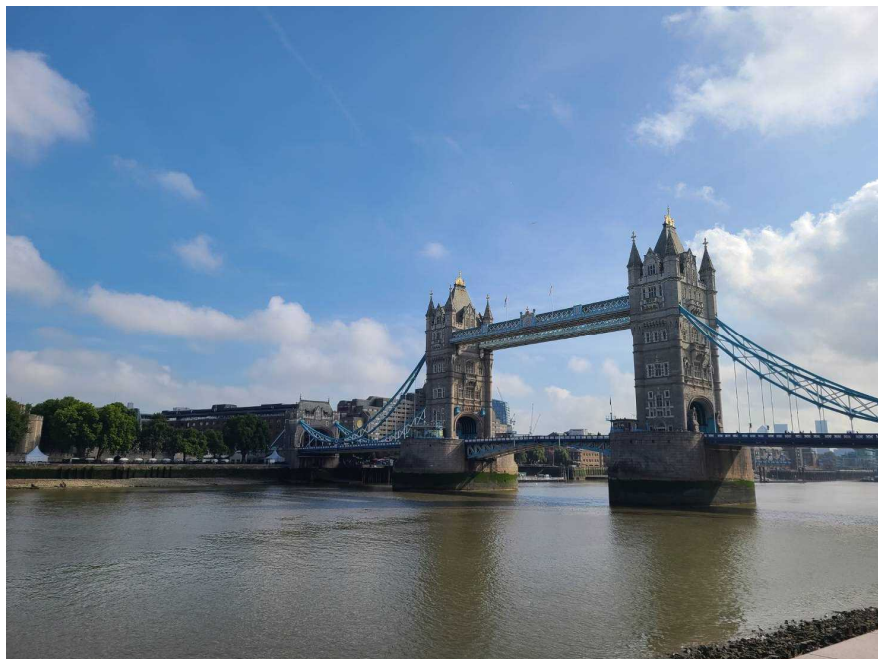
留学を通しての感想

英語を学びたいと思っている学生と出会えることが自分の刺激になった。日本では体験できないことができて一生忘れないと思う。コロナ禍で、海外研修などに行きたくても行けなかった人が多くいる中で、自分がこの研修に参加できたことに感謝したいと思う。これから海外研修が行きやすくなり始め、倍率が上がると思うが、自分も挑戦したいと思う。もっと多くの人と対話し、いろんな人の役に立てるような人になりたいと思います。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマープログラム／語学セミナー)

氏名	C さん		
所属	_____ 文 _____ 学部・大学院 <u>コミュニケーション情報</u> 学科・専攻		
留学先機関名	国際大学連合 (国名：イギリス)		
参加プログラム区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	2022 年 8 月 30 日－ 2022 年 9 月 21 日	留学開始時学年	<u>3</u> 年次
奨学金 (奨学金を受給した場合)	☐ 奨学金受給無し ☒ JASSO 海外留学支援制度 ☐ 国際奨学事業 ☐ ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 ☐ その他 ()		



1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 (語)		
勉強方法	TOEIC 対策本で単語の勉強、事前資料にあった簡単な日常会話フレーズを覚える		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用(おおよ その費用)	☒ プログラム費用 50 万 円 ☐ 宿泊費用(寮／ホームステイ等) 円 ☐ ビザ申請 円 ☐ 渡航費(□片道 □往復) 円 ☒ 海外旅行保険料 1 万 円 ☒ 食費 8000 円 ☒ その他(税金・燃料サーチャージ代) 11 万 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	JAL, BA	手配	※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	熊本→羽田→ロンドン・ヒースロー→マンチェスター	到着時刻	21:35 【※移動時間(約 17 時間)】
大学(寮)への 移動手段	☒ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☐ 公共交通機関(□バス □電車) □その他()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	空港から大学付近までは国際大学連合の方の手配で連れて行っていただいたので特にありません。		
宿泊先	☐ 寮 ☒ ホームステイ その他()	宿泊 手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他()
部屋の種類	☒ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他()	ルーム メイト	☒ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他()
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	海外旅行保険、SIM カードの入れ替え、クレジットカードの上限引き上げ		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	午前中→授業（歴史・文化・語学） 午後中→フィールドワーク（歴史的建造物、観光地）
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	重要なお知らせなどは日本語に翻訳して伝えていただいたので、スムーズに動けることができました。 また、フィールドワークなどはその文化圏での特徴や注意事項などを合わせて教えていただいたため、より理解を深めることができたように思います。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	奨学金の手続き
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	ホストファミリーがおすすめしている景勝地や、ボランティアなどに参加しました。ホスト先の娘さんの友達が多く来ていたのでいろいろな人と友達になれたように思います。また、個人旅行として同じ大学のメンバーとロンドンにも行きました。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

当初の留学目標として①英語を話すことへの抵抗感を無くして、スピーキング能力を高める②文化や歴史的背景の違いを学ぶという二つを挙げていました。①に関しては、ホームステイ中に日本人同士でも英語を使うと決めていたため、毎日英語で話さざるを得ない状況に身を置くことができていました。英語が使えるというのは正しい単語や文法で話せるとばかり考えていましたが、それよりも何度も話して伝える努力をするほうがはるかに大事であると分かりました。②に関しては、授業の中で文化や歴史について非常に詳しく教えて頂きました。今回はウェールズに行ったので、ウェールズ独自の文化についても知ることができました。留学に行く前は、イギリス人はこんな人・日本人はこんな人と対照的に考えていましたが、特性はあるものの日本人と同じでその人次第なのだと感じました。海外の人に対する偏見（良くも悪くも）を払拭できてよかったです。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関することなど自由に記載してください）

今回のプログラムは三週間という長さのため、留学に行くことをためらっている人にも是非お勧めしたいと思います。むしろ体感では一週間くらいに感じられるほど充実した内容で、特に大きなトラブルもなく過ごすことができました。私は英語を話すことが本当に苦手だったのですが、このプログラムを通してその抵抗感がなくなったように思います。最初は自分が分かる単語を並べて話すだけでしたが、毎日英語に触れることで自然とフレーズをまねできるようになりました。またプログラム中にエリザベス女王がなくなれるという一大ニュースが起きましたが、それも含めて今まで自分になかった考え方や経験を吸収できる良いきっかけだと思います。大げさに自分の考えが変わるといったことはありませんでしたが、帰国してから少し視野を広げて物事を考えられるようになりました。海外に行くとなると不安要素が多いと思いますが、全国から参加者が来るので日本の友達もたくさんできます。少しでも興味があればぜひ参加してみたいです。

留学を通しての感想

この留学を通して、自分が普段考え、経験している領域から一歩外に踏み出せたように思います。もちろん違う国にいたので異なる文化や考えに触れることもできますが、「自分は英語が苦手だ」という根強い意識が「英語を使って話すことは楽しい」という感覚に変わりました。そしてイギリスの方と話しているうちに自分の考えをもっと伝えるために、英語そのものへの興味が強くなったように感じます。日本の学校で学ぶときはただの一言語としかとらえていませんでしたが、会話の内容や年代に応じて背景や歴史が深くかわっていることを知りました。その興味は日本に帰ってからでも続いているように感じますし、海外で新しいものをたくさん見たからこそ日本の良さにも改めて気づくことができます。自分の中で新しいことに恐れずチャレンジを続けられた経験になったため、本当に行ってよかったと思います。この経験が無駄にせず、就活や残りの学校生活でも好奇心を忘れずに努力を続けていこうと思います。

(協定校サマープログラム／語学セミナー)

1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☐ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☐ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 (語)		
勉強方法	熊本大学の英語学習プログラム (Really English)		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用 (おおよ その費用)	☐ プログラム費用 477000 円 ☐ 宿泊費用 (寮／ホームステイ等) 恐らくプログラム費用に含 まれています 円 ☐ ビザ申請 0 円 ☐ 渡航費 (□片道 □往復) 116120 円 ☐ 海外旅行保険料 7530 円 ☐ 食費 9000 円 ☐ その他 (お土産代、個人旅行等) 90000 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	日本航空 British Airways	手配	※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	羽田からヒースロー空港 ヒースロー空港からマンチ ェスター空港 マンチェスター空港からバン ガー	到着 時刻	現地時間で深夜 2 時 【※移動時間 (約 17 時間)】
大学 (寮) への 移動手段	☐ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☐ 公共交通機関 (□バス □電車) ☐ その他 ()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等			
宿泊先	☐ 寮 ☐ ホームステイ その他 ()	宿泊 手配	☐ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他 ()
部屋の種類	☐ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他 ()	ルーム メイト	☐ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他 ()

その他生活に必要な手続き、アドバイス (口座開設、保険、携帯電話、荷物、支払い方法など)	Visa などの海外でも使えるクレジットカードを持っていくこと。日本から貸し出し Wi-Fi を持っていくか、現地で Sim カードを購入すると良い。 保険には必ず入っておき、自分の搭乗券等は念のため家に帰るまで捨てないこと。 安全対策はしすぎるくらいが丁度いい。
---	---

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	基本的に英語での授業。 バンガーの歴史やフィールドトリップで訪れる場所の歴史等に関する授業や語学力を上げるための授業、ウェールズ語の授業やドラマの授業など。 スペシャルプログラムの内容は、身体を使いながら英語を学び、英語で話すことがベースの授業、歴史を学ぶための見学旅行、教会で民謡音楽を聞く、小学校訪問、病院訪問など授業だけでなく、ウェールズの観光地もいくつか訪れました。 授業は日本人と一緒に受けます。
留学先大学でのサポート体制について (語学面／学校生活／住居・日常生活等)	空港で起きたトラブル、日常生活、学校生活のサポートをしていただきました。私はロストバゲージにあったのですが、荷物が届くまでの対応や再発送の対応を一緒にしていただきました。
留学開始後に行った留学先大学の手続き (学生証、履修登録、大学 ID の設定等)	3 週間だったため、ありません

休日や余暇の過ごし方 (観光、現地学生との交流等) ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	ホストファミリーと近所にお散歩しに行ったり、観光地に行ったりしました。また、学生同士で1泊2日の旅行にも行きました。現地学生との交流はありませんでした。
--	---

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）
今回の研修を通して、イギリスと日本の違いや、お互いの国の良さを発見し、再確認することができました。私は自信の無さや優柔不断で自分の殻を破れないところを変えたくて今回のプログラムに参加しました。英語が上手く話せなくても3週間の中で積極的にホストファミリーとコミュニケーションを取り、自分の中で少しずつ挑戦したことで、前よりも自信がつき、できなくてもまずやってみよう、不安でも挑戦してみようとプラスに考えることができるようになりました。 性格の面では、留学前よりもフレンドリーになったと思います。 語学に関しては、リスニング能力は徐々に上がっていったと感じます。話すことに関しては、最初は自分の考えや思いを英語で伝えることはとても難しく、なかなかできませんでした。しかし、過ごしていくうちに自分の考えなどを英語で伝えられるようになったし、語彙力も留学前より上がったと思います。帰国後は、英語学習に対するモチベーションが向上しました。
同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関する事など自由に記載してください）
バンガーの夏は日本の秋冬くらいなので、ヒートテックやニットなど、暖をとれる洋服をいくつか持っていくと安心だと思います。基本的にクレジットカードで何でも払えるので、現金は最低限持っていけば大丈夫だと思います。 もし、このプログラムに参加するかどうかわ迷っているならば、絶対に参加するべきだと思います。やらずに後悔するよりやって後悔です。

留学を通しての感想

今回の留学プログラムに参加して本当に良かったです。自分自身や自分の将来について見つめ直すことができたし、自分の中の視野や考え方が広がりました。今回経験したことは自分の人生の中で忘れられないものになりました。もしまた機会があれば参加したいですし、もっと色々な景色を見て、あらゆる考え方や文化に触れたいと思いました。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマープログラム／語学セミナー)

氏名	E さん		
所属	教育 学部・大学院 小学校 学科・専攻		
留学先機関名	国際大学連合 (国名：イギリス)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	2022 年 8 月 30 日－2022 年 9 月 21 日	留学開始 時学年	1 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☐ JASSO 海外留学支援制度 ☒ 国際奨学事業 ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 ☐ その他 ()		



1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他()語)		
勉強方法	語学研修であったため、日常程度の会話を話すことができればよ かったので、特に英語の教科の勉強はしていません。その時間を、 ホストマザーへのお土産を通した日本文化の説明について考えたり、 興味があったウェールズの教育について調べたりしました。		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用(おおよ その費用)	☒ プログラム費用 60 万円 ☐ 宿泊費用(寮/ホームステイ等) 0 円 ☐ ビザ申請 0 円 ☐ 渡航費(□片道 □往復) 0 円 ☒ 海外旅行保険料 7500 円 ☒ 食費 3 万円(平日のランチ代、カフェ代) ☒ その他(ロンドン小旅行代) 6 万円 ☒ その他(イギリスお土産代) 10 万円 ☒ その他(日本土産代) 1 万円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	JIL	手配	IFU ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	阿蘇くまもと空港→羽田空 港→ヒースロー空港→マン チェスター空港→バンガー	到着 時刻	3:00 【※移動時間(約 48 時間)】
大学(寮)への 移動手段	☒ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☐ 公共交通機関(□バス □電車) ☐ その他()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	キャリーケースの破損や、ロストバゲージの手続きはゲートに出 る前に手続きを行う必要があるため、確認してからゲートを出る。 搭乗ゲートを必ず確認する。		
宿泊先	☐ 寮 ☒ ホームステイ その他()	宿泊 手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他()
部屋の種類	☒ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他()	ルーム メイト	☐ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他()

その他生活に必要な手続き、アドバイス（口座開設、保険、携帯電話、荷物、支払い方法など）	・イギリスはキャッシュレス化が進んでいるため、現金ではなくカードでの支払いが良いが、バスに乗る際はコインが必要なので現金が使える店でコインを出しておく。 ・SIMカードを使用する際は、その利用方法を事前に確認しておく。
--	--

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	授業に関しては、フィールドワークで訪れる場所に関する学習や、日本で予習してきたことの授業、クロージングセレモニーで披露するドラマの授業、ウェールズに関する授業、小学校や病院、美術館などを訪問する特別授業がありました。どの授業も英語で行われました。英語は私たちの英語レベルによく合わせられていました。授業内容もとても素晴らしい構成でした。私が特に興味深かった授業は、Self-Introduction Orientation です。一番初めの授業で、英語の楽しさを声や体、顔で伝えてくださいました。バンガーに来て間もないころだったため、まだまだ浮かれ気味な私に、この授業を受けたことで、集中して授業にとりくむぞ！という気持ちになりました。英語の自己紹介は本当に大切なことだと思います。 フィールドワークに関しては、実際に授業で学習したお城、町に訪問しました。見学するだけでなく、クイズを解くという課題があったため、その場所に関する知識も習得することができました。お城は世界遺産に登録されているお城なのでとても迫力がありました。中にはお土産屋さんがあり、お土産を購入することもできました。町に行ったときには、自由行動が3時間ほどあったため、フィッシュアンドチップスやアイスクリームなどのご当地グルメを食べたり、有名な場所で写真を撮ったりしました。フィールドワークに行った際には、スタッフの方がたくさんの写真を撮ってくださいました。 スケジュールに関しては、ウェールズやバンガーについてしっかりと学べるスケジュールになっているため、少しきつめに設定されています。しかし、きつめに組んであるからこそ、学校が17時までには必ず終わるため、ホストファミリーとの時間をしっかりとることができました。 最後にクロージングセレモニーがありました。みんなで Help Me ! を合唱したり、ドラマをしたりしました。3週間ともに過ごした仲間と作り上げるクロージングセレモニーはとても感動しました。
--	--

留学先大学でのサポート体制について (語学面／学校生活／住居・日常生活等)	今回私たちの学習をサポートしてくださった国際大学連合についてのサポート体制を述べたいと思います。語学面では、生徒のレベルごとにクラスが分けられました。しかし、どちらがハイレベルなクラスであるかも分からないようにされていたので、留学生は安心して学習できていたのではないかと思います。また、英語を学習する日本での授業とは異なり、英語で情報や歴史、文化について学習する授業でした。そのため、英語を学習するだけではなく、英語を用いて総合的に学習することで総合的に英語の力を高めることができたと思います。学校生活面では、質問したことに対して丁寧に回答してくださいました。また、住居・日常生活等では、ホストファミリーと性格が合わない友達いましたが、ホストファミリー変更の手続きを迅速にされていました。ホストファミリーの変更はとても大変なことであるのにも関わらず、生徒の学習環境を整えるために、行動してくださっていたところにとっても感動しました。
留学開始後に行った留学先大学の手続き (学生証、履修登録、大学 ID の設定等)	語学研修であったので、特に留学先での手続きはありませんでした。しかし十カ月コースの方は、学生証の発行や、図書館の使い方などの指導を受けられていました。
休日や余暇の過ごし方 (観光、現地学生との交流等) ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	最初の土曜日 休日はホストマザーがいろいろなところへ連れて行ってくれました。最初の週の土曜日は、イギリスに来て初めての休暇だったので、午前中はゆっくりと睡眠をとりました。お昼になると、ホストマザーの娘家族とカフェに行きました。お孫さんが私たちに手作りのホットチョコレートをふるまってくれました。とても甘くておいしかったです。午後には、アートギャラリーへ行きました。アートギャラリーでサンドウィッチを食べました。その道中で、ウェールズの山や、一晩でできた家見ました。夜はホストマザーがパーティーに行く予定があったので、同じホスト先の留学生と一緒に、「風の谷のナウシカ」を鑑賞しました。 最初の日曜日 最初の週の日曜日は、ビーチに行きました。ホストマザーは歩くことが好きなので、ビーチ沿いを 3 時間ほど歩きました。みんなで写真を撮ったり、景色を見たりして楽しかったです。ビーチのベンチで、ホストマザー手作りのおいしいサンドウィッチを食べました。間の週の土曜日と日曜日は、熊本大学の学生でロンドンへ小旅行に行きました。もともと私自身は、ロンドンに行くつもりはなかったのですが、熊本大学の先輩方のお力のおかげで、ロンドン小旅行を達成することができました。1 日目と 2 日目に分けて記述した

いと思います。

ロンドン 1 日目

朝は、ホスト先で借りている部屋をとっても綺麗にして外出しました。駅に着いてからは、カフェに一回寄って電車に乗りました。ユーストンについてからは、itsu と呼ばれている日本料理店で、餃子スープを食べて、行動開始しました。荷物を預けて、キングズクロス駅の 9 と 3/4 線に向かいました。写真を撮るまで時間はかかりましたがとても良い写真が撮れました。ハリーポッターのグッズショップでお買い物をしたり、日本ではまだ発売されていないパンプキンスパイスイフラペチーノを飲んだりしました。その後は、日本未上陸のジョーラブズと呼ばれる香水屋さんに行き、電車にのってバッキンガム宮殿に向かいました。バッキンガム宮殿にはエリザベス女王を、追悼する人でものすごい人ばかりができていました。警備もとても厳重でした。夜はコベントガーデンでバーガーを食べました。初めてチップを払いました。その後、ウィットードと呼ばれる紅茶屋さんに行った。紅茶が得意な方ではなかったので、ホットチョコレートも人気がみたいで、ホットチョコレートを買いしました。その後、世界的に有名なロンドン・ミュージカルでライオンキングを見ました。ライオンキングはとても感動した。一人ひとりで席を予約したため、両隣海外の人だったことや、日本では考えられないほどの歓声や拍手、口笛にとっても興奮しました。ライオンキング見た後は興奮して、ライオンキングキーホルダーを買ったり、写真撮ったりしました。外も暗くなってきて、荷物を受け取って、ホテルに戻った後は、そのままパブに行きました。

ロンドン 2 日目

朝は、早起きしてロンドン 2 日目の準備をしました。ホテルがキーパゲージしてくださるとのことですそのまま歩きと地下鉄で、ロンドン塔とタワーブリッジに行って写真を撮りました。カフェでブリティッシュブレックファーストを食べました。とても美味しかったです。その後、ビッグベン、ロンドンアイ、ウエストミンスター寺院で写真を撮りました。その後は、デパートのハロッズでお買い物をしました。大量のチョコレートに、熊のぬいぐるみを買いました。その後は、大英博物館でロゼッタストーン、モアイ像、ミイラを見ました。教科書で見たものが間近にあり、とても感動しました。急いで帰ろうとしましたが、電車の時刻を間違えてしまっていたため、間に合わなくて次の列車に乗りました。旅行にはトラブルはつきものなので、柔軟に対応していきたいと思いました。

最後の日曜日

私と同じホスト先の留学生は、10 カ月コースだったため、私の行きたいところに連れて行ってくれました。私は、父へのお土産として

	地酒を購入したかったので、ホストマザーのおすすめの地酒を購入しました。その後は、みんなで、スターバックスで落ち着いたひと時を過ごしました。その後、夜ご飯に同じホスト先の留学生とホストマザーに日本食をふるまうことになり、バンガーで一番大きなスーパーマーケットに行き、材料を探しました。日本食は、唐揚げと豚汁を作りました。日本のような豚の薄く切っているのはなかったので、他のもので代用して作りました。ホストマザーもとても喜んでいて、作ってよかったなと思います。 最後の月曜日（エリザベス女王の国葬のため休みになりました。）他のホストファミリーの方の家に行き、エリザベス女王の国葬を見た後に、アフタヌーンティーをしました。たくさんの紅茶に合う芋虫の形のロールケーキやシュークリーム、ウェールズの伝統的なケーキ、サンドイッチ、チップスなどをふるまっていただきました。紅茶を何杯もお代わりしました。留学生のみんなと談笑しながら、最後のイギリスでの休暇を楽しみました。次の日が帰国日だったので、夜のうちに帰国する準備を行いました。 帰国日 帰国日には、早いうちに道具を整理して、ホストファミリーと一緒に過ごす時間をとても大切にしました。集合場所で、一緒に写真を撮り、感謝のお手紙を渡しました。また、10 カ月コースのファウンデーションコース生も一緒にお見送りをしてくれました。留学生は、涙を流しながらの寂しいお別れでした。とても天気の良い朝で、思い出すと今でも心がきゅっとなります。
--	---

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）	
・ 語学に関すること	3 週間で英語の成果を感じることができました。特にスピーキングです。ホストマザーとの会話は三週間でだいぶスムーズに話すことができるようになりました。また、ウェールズ語に関しても学習を行いました。また、空港などでは学生以外はいなかったため、公共の場所で英語を話さなければならませんでした。そういう場合に、言いたいことを伝えられる喜びを感じました。また、授業では、英語を話すうえで大事なことをたくさん紹介してくださり、実践的な練習もありました。「おはよう」「こんにちは」「おやすみなさい」「お元気ですか」「紅茶をのみませんか？」などの簡単な表現などを学習し、よく使用していました。現地の方もとても嬉しそうでした。その次にリスニングです。リスニングでは、イギリスにいる間には、「とてもできるようになった！」とは感じませんでした。しかし、いざ帰国して、マルチの授業を受けると、先生の言っていることがよくわかり感激

しました。

・ものの考え方・取り組み方

ウェールズに行っても驚いたことは、目があった人や、隣を通り過ぎる人に対して笑顔を見せることです。ウェールズに行ったばかりの頃はその文化に慣れることができませんでした。生活していくうちに日常に人とすれ違うだけで笑顔が生まれる素晴らしさに気づき積極的に笑顔を人にむけるようになりました。日本に帰ってきてからも、笑顔の人をむけることで、穏やかな気持ちで日々を過ごすことが出来たり、ちょっとした会話が生まれたりしています。また、私は10カ月コースの留学生と同じホストファミリーでした。彼女たちの話は私に、学習に対する情熱を与えてくれました。彼女たちは、海外の大学に進学するために、10カ月間ファンデーションコース生として英語の学習に取り組めます。10カ月外国で学習することはとてもお金がかかる上に、テストでいい成績を残さなければなりません。彼女たちは、10カ月間、日本に帰らず、遊ぶ余裕などなく、海外の大学に行くために、英語の勉強をひたすらにしなければなりません。彼女たちは、とてもプレッシャーを感じていました。もう日本には帰ることができないこと、英語の学習への不安などで涙を流していました。そんな彼女たちを見て、楽しいだけの大学生活でよいのだろうか？と自分を問いただすことができました。私が日本に帰国する際に、彼女たちと自分自身の夢を達成することを約束しました。一緒に夢に向かって本気で頑張る仲間ができました。彼女たちは今、英語に真剣に向き合い学習を進めています。9600 km離れたところに、共に頑張る仲間がいることが、私の学習を後押ししてくれています。このように、ホストファミリーや現地の人、学校の先生に加えて、共に学習する留学生同士の間にも刺激を感じることができます。また、現地の人々はリラックスすることをとても大切にしていました。ご飯の後には、必ず紅茶とお菓子を並べて、会話をしたり、自分の好きなことをしたりします。日中の活動にしっかりと取り組むためにも、休息をととても大切にする考え方は、とても素晴らしいと思いました。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関する こと、生活全般に関する事など自由に記載してください）

もし、海外に行ってみたいという気持ちがあるならすぐに行動することが大事になると思います。しかし行動するには下準備が必要になってきます。私は、大学に入学した時点で、海外に行きたい！と考えていたため、入学して1週間後には国際教育課に、短期留学プログラムについて尋ねに行きました。その時にはまだ、具体的なことは決まっていなかったのですが、留学のすすめなどの説明会があること、メールで情報が配信されることなどの情報を知ることができました。特に大学に入学してすぐであったため、短期留学を希望している他の学年の学生に対して、情報を収集する力や、大学の留学の仕組みを理解していないことを自覚していたからこそ、自分の足でいろいろな担当に行き、話を聞くようにしていました。また、自分がなぜ留学に行きたいのかについて、しっかりとした軸を持つことが、留学の選考を通過するには必要だと考え、日ごろから考えるようにしていました。また、自分の夢と、求められていることをうまく合わせられるように心がけました。ここで自分のやりたいこと、学習したいことをしっかりと確立することができたため、留学してからも、目的に向かって学びを進めたり、意見を積極的に現地の人に求めたりすることができました。また、ホストファミリーのお土産に関しては、ホストファミリーの趣味や好みに合わせて用意するとよいと思いました。日本らしいものを選ぶ際には、趣味や好みに合わせるとさらに喜んでくれると思います。また、イギリスのご飯はおいしくないとい

耳にすることが多いと思いますが、家庭料理は本当においしいです。お店で食べるご飯もちろんおいしいですが、日本人が食べ慣れていない食材が出てくるともあるため、おいしくないと感じるはそのような場面ではないかと思います。しかし、基本的にはとてもおいしいです。物価は高く、円安もあったため、ランチ代などは多めに見積もっておくと安心して、購入することができます。

留学を通しての感想

私のホストファミリーは、バンガーハイストリートの裏山を越えた先に住んでいました。イギリスは、石油の価格や電気代が高騰しているため、とても気を付けていらっしやったため、学校までは、車で道のわかるところの途中まで送ってもらい、途中から同じホストファミリーの留学生と徒歩で学校に行っていました。約 30 分の道のりでした。英語の能力を高めるために、日本人同士でいるときも意識的に英語で話すようにしていました。また、ホストファミリーの前でも日本語はなるべく使用しないようにしていました。どうしても分からない単語があったら、英語で同じ留学生に質問して教えてもらうようにしていました。短期留学に参加する前は、この短期留学で私は成長できるのだろうかと心配に思っていました。しかし、留学していろいろな人と出会う中で、その人の人生について聞いたり、夢を語り合ったりすることで、自分の考え方の幅を広げる事ができました。また、学生だけで行ったロンドンへの小旅行も、いろいろなことが起き、刺激的時間を過ごすことができました。私はこの留学で気づけたことがあります。それは、日々の生活に小さな挑戦を意識することです。この単語を発音する挑戦、この話題について話す挑戦、知らない場所で電車に乗る挑戦、など、留学ではすべての事において挑戦を意識するようになります。それを意識しているからこそ、日々が充実しているように感じ、成長したと感ずることができたのではないかと思います。日本にいたときは、当たり前のように何でもこなしているから、小さなことに意識を向けることができていなかったと思います。小さなことに意識を向けることの大切さに気付けたおかげで、日本に帰国して 1 カ月ほどたった今でも、何事に対しても挑戦を意識することで、行動に移し、達成し、自分自身の成長を感じることができています。私たちの日々は私たちが考えている以上に刺激的です。これからも、いろいろな国に留学や旅行をしたいと思います。

氏名	F さん		
所属	文 学部・大学院 コミュニケーション情報 学科・専攻		
留学先機関名	バンガー大学 (国名：イギリス)		
参加プログラム区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	2022 年 8 月 31 日－2022 年 9 月 21 日	留学開始 時学年	3 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☐ JASSO 海外留学支援制度 ☒ 国際奨学事業 ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 ☐ その他 ()		

熊本大学海外派遣留学生 報告書
(協定校サマープログラム／語学セミナー)



1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 ()		
勉強方法	TOEIC対策の本を空き時間に進め、定期的に力試しのためにTOEICを受講していました。		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用(おおよそ その費用)	プログラム料金(授業料、往復の航空運賃、現地までの送迎日、 バンガーでの滞在費) 477,000 円 パスポート取得費(10 年用) 16,000 円 通学費(バス) 2,720 円/一週間		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	JAL	手配	大学のプログラムで、あらかじめ手配していただきました。 ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	熊本→東京→ヒースロー→マンチェスター	到着時刻	【※移動時間(約 16 時間)】
大学(寮)への 移動手段	☐ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☒ 公共交通機関(☒ バス ☐ 電車) ☐ その他()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	私が、参加した語学プログラムでは、マンチェスター空港から、バンガーまでのバスが手配されていました。		
宿泊先	☐ 寮 ☒ ホームステイ その他()	宿泊手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他()
部屋の種類	☒ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他()	ルームメイト	☒ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他()
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	フリーWi-Fi はお店などにありますが、接続がうまく行かないことも多くあったので、3 週間でも、携帯は現地での SIM カード購入をお勧めします。 マンチェスター空港到着時、多くの留学生がロストバゲージに合っていました。保険に入っておくことをお勧めします。		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	英語の教科を始めとして、多方面にわたる授業を受けました。また、周辺の世界遺産や観光名所である Conwy-plas Mawr や Penrhyn castle、Caernarfon Castle を回るフィールドワークがありました。 フィールドワークでは、クイズが用意されており、それを解きながら自分たちで自由に周ることが出来ました。 また、授業も日本人のために分かりやすい授業をして下さり、とても優しい先生方が多かったです。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	とても手厚いサポートで、何かあった時は連絡すれば、すぐに助けて下さりました。日本語を話せるスタッフの方が、常に近くにいてくださったので安心して生活を送ることが出来ます。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	短期の留学だったため、カリキュラムなども決められており、特に手続きなども必要ありませんでした。
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	・ホストファミリーとピクニック ホストファミリーの子供たちや他大学の留学生と一緒に地元で有名な滝にピクニックをしに行きました。 ・ロンドン観光（1泊2日） 一緒にプログラムに参加した同大学の子たちとロンドンに行きました。 ホテルの予約や、ミュージカルの予約、電車の乗り方などは、ネットで調べて、それぞれホストファミリーに教えてもらいながら、事前にしっかりと計画を立てて行きました。大英博物館やビッグベン、タワーブリッジ、バッキンガム宮殿など人気の観光地を主に回りました。 ・ルームメイトとバンガー市内散策 バンガー市内を徒歩で散策しながら、現地の方と沢山お話をしました。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

三週間という短い間で、英語力を劇的に上げることは難しいですが、留学に行く前に比べると確実に自分の英語力に自信ができました。

現地の授業では、自分の意見を積極的に発言することを求められるので、相手に伝わりやすい表現方法や話し方を考えることを常に意識していました。

また、ホストファミリーとは毎食後には必ずお茶をしながら、たわいもない話をして、その日の出来事やお互いの文化について話していました。そのおかげで、英語力に自信がただけでなく、ホストファミリーとの絆も深めることができましたと思います。

この短期留学を通して、結局行動するかしないかを決めるのも自分だし、自分の決断と行動次第で視野はどんどん広がっていくので、自分に自信をもって自分らしくいること、思い立ったらすぐに行動していくことが大切だと身をもって感じました。

普段の環境から離れて、新しい土地での生活は、みんな自信がないのは一緒ですが、勇気を持ってとにかく行動していくことが大切だと思います。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関する事など自由に記載してください）

バンガーの方たちは、みんな親切で思いやりがある方が多いので、安心して生活できます。文化が日本と大きく異なり、日本人にとっては当たり前のことが、現地の人たちにとっては当たり前でないことも多くあります。初日にホストファミリーに家庭のルールや現地の文化などについてしっかり話す時間を設けた方がいいと思います。

また、現地は、とにかくクレジットカード払いが多く、カードしか使えない店も多くあったので、クレジットカードは必ず持っていくことをお勧めします。

他大学からの参加者も多く、日本人は全体で50人くらいいました。日本人で固まってしまって英語を全く話していない人もいたので、英語力を伸ばすためにも日本人同士で固まりすぎずに自分から積極的に新しいコミュニティに飛び込んでいくことをお勧めします。

留学を通しての感想

3週間という短い時間でしたが、新しい気づきや発見が多くあり、貴重な経験になりました。現地の人は、日本人に比べ、周りの目を気にせず自由に自分らしく生活していると身をもって感じました。また、私は2つのホストファミリーにお世話になりましたが、どちらの家庭も家族の時間を大切にしており、愛情表現の豊かさが印象的でした。3週間という短い期間での語学力向上には限りがありますが、とにかく積極的に自分から話すことで留学前に比べると英語力が向上したと実感することができます。短い期間で、辛かったこと、困ったこともありましたが、ホストファミリーやルームメイトなど多くの人が支えてくれたおかげで楽しく過ごせました。そして、最終日は、ホストファミリーや現地の友人と必ず再開することを約束し、涙を流しながら別れを交わし、再開の日まで語学学習をもっと頑張ろうと思いました。留学を許してくれた家族や、親切に手続きのサポートをくださった国際教務課の方、現地でサポートしてくださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。留学したいけど、長期留学は勇気が出ない人や留学で迷っている人にはぜひ挑戦してほしいです！